

第25回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日時	平成21年5月20日(水) 18時00分～20時10分
場所	千葉県国際総合水泳場
参加者数	38名
出席委員	16名(遠藤茂勝、工藤盛徳、倉阪秀史、榊山勉、清野聡子、宮脇勝、及川七之助、竹川未喜男、三橋福雄、歌代素克、後藤隆、松崎利光、田草川信慈、荒木博美、大野二三男、鯉淵彰) : 委員長
結果要旨	
<p>春季モニタリング調査の結果概要</p> <p>資料3により事務局から報告があり、質疑応答及び意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市所有地前に市は砂をつけたい。小規模でも試験をしないと方向性もわからない。市川市所有地前に対照測線L-3があるために試験ができないというのでは硬直してしまう。対照測線L-3の意味合い、市川市所有地前に手を加える(試験を実施する)必要性を県庁内で調整してもらいたい。 <p>第24回委員会の開催結果概要</p> <p>資料4により事務局から説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員からの意見、要望に対して、事務局に回答、対応をお願いしたい。 <p>平成21年度護岸検討委員会開催予定</p> <p>資料5により事務局から説明があった。</p> <p>三番瀬評価委員会からの意見及び対応について</p> <p>資料6-1～資料6-4により事務局から説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p>【砂付け試験関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮が引いたときタイドプールとなるLWL時の調査をしてほしい。粒径の変化をみたほうが良い。 ・置かれた石により波が攪乱される。さらし砂のダイナミズムは軽減される。 <p>護岸バリエーションについて</p> <p>資料7により事務局から説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。</p>	

[主な意見及び対応]

- ・ バリエーションの区間は50mだと短いと考える。
- ・ 案、案の断面を組み合わせていくのが良い。
- ・ 潮間帯の距離を延ばすことが生物にとってよい。どれだけ干潟的環境を取り戻せるか議論すべきである。
- ・ 親水性は案が他よりもよい。干潟が付けばもっと良い。案など組み合わせてもよい。
- ・ 施設の管理にもコストがかかる。市を含めた管理方法を考えた方がよい。
- ・ 平場だけ海岸方向に伸ばすことはできるか。知らない人はカキですべて大怪我をするため手すりがないと危ない。
- ・ 鳥が集まる場所では100m以上離す必要がある。鳥を見ることを考えるのであれば専門家の方に相談してみたらどうか。
- ・ 生物からみたバリエーションを考える。緑化試験はバリエーション検討の一環として行っているので、それがどのように活用できるか検討した方がよい。柵などでの防護は必要と考える。
- ・ 柵は景観上良くないが、必要な場合は耐久性があり目立たないもので考えてほしい。柵の位置は下がった方がインパクトは小さい。何を保全するかでデザインが決まる。保全ゾーンはミニマムがよい。案よりも案などブロックがない方がよい。
- ・ 保安員を配置するのか。防犯灯は付けるのか。ゴミの山になる可能性がある。管理費はどうするのか等心配している。
- ・ 背後地が見えてこないとイメージができない。現実的なところで何ができるのか議論すべき。
- ・ 捨石は生物からみると悪くない。小島などのバリエーションを入れてもよいのではないか。パース図を描いて断面を詰めていく。
- ・ 事務局案の幅でバリエーションを考えればよい。
- ・ 評価項目に生物面、管理面、予算面を入れてみる。公園前は大胆に考える。
- ・ まちづくりについては、経済情勢もあり遅れている。海辺のまちづくりの方向性は変わっていない。海側の整備が先行しても支障ない。
- ・ 背後地が無い場合の胸壁の案もバリエーションに入れてほしい。
- ・ 保全区域を広げない。生物多様性の構造を織り込む。平面図を描いてみる。複合的な形はありえるのか検討する。評価項目の内容を詰める。今年度に方向性を出したい。

傍聴者からの意見

- ・ 特になし